

図書室だより



いつも、文化の森てんえい「図書室」をご利用いただきありがとうございます。

森の美術館

今月は湯本中学校の皆さんの作品です！



「とうろうデザイン」



「疲れているのに行動はえーん」「私は私を好きであれ！」



「狼人間」



「今日やろうはバカ野郎」



2022年本屋大賞



逢坂冬馬さんのデビュー作で『同志少女よ敵を撃て』早川書房に決定しました!!



4月23日より『こどもの読書週間』が始まります。幼少の時から書物に親しみ喜びや楽しみを知り、物事を正しく判断する力をつけておく事が子どもたちにとってどんなに大切な事か。子供に読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子供の読書の大切さを考える時、それが「こどもの読書習慣」です。この機会にお子さんと一緒に本を読んでみませんか!!

おすすめ!



【Y.Mさんおすすめ】
『芙蓉の人』 新田次郎/著/文春文庫

昭和40年代、私は富士山にのぼったことがあります。晴れた日で頂上からは真っ青な空と眼下には一面の雲海が広がり、とても気持ちが良かったのを覚えています。今は気象衛星で世界各地の雲の様子を確認できます。「芙蓉の人」は明治28年この富士山頂（3,776m）に気象観測所を設ける為に、野中到、千代子夫妻が命をかけたお話です。当時は大変な評判になりましたが年月の経過とともに忘れられてしまったそうです。明治の母性に強さを感じました。



【S.Kさんおすすめ】
『母親からの小包はなぜこんなにダサイのか』 原田ひ香/著 中央公論新社

実家から送られてくる小包はダサイというより「よくまあこんなに詰め込んだな」とおもうくらいギッシリ詰まっていた。私も親になり送る側になると、やっぱり隙間なくギッシリ詰めてしまいます。送られて来る小包にはそれぞれ意味があって中身も色々です。親の気持ちと子どもの気持ちの両方わかるので、せつなくて泣けてしまいました。これからは親にもっと優しくしようと思いました。そんな気持ちになった本です。





今月の新着図書



【一般書】

- すみれ荘ファミリア
- 罨に落ちろ
- 彼女が最後に見たものは
- 獣たちの葬列
- レシピとよぶほどのものでもない わたしのごちそう365
- ポタニカ
- 母の待つ里
- 監禁
- フィッシュボーン
- 神曲
- 怖ガラセ屋サン
- 六つの村を越えて髭をなびかせる者
- birth
- おネコサマ御一行
- 全員悪人
- 山亭ミアキス
- 黄金旅程
- 黄金の刻 小説服部金太郎
- 特許やぶりの女王
- 時を稼ぐ男
- 今がわかる時代がわかる世界地図2022版
- 今がわかる時代がわかる日本地図2022版
- 人間晩年図鑑1990～94年
- 13歳からのレイチェル・カーソン
- 自由への手紙
- ヒトの壁

- 凧良ゆう
- 藤田宣永
- まさきとしか
- スチュワート・マクブライド
- 寿木けい
- 朝井まかて
- 浅田次郎
- 秋吉理香子
- 生馬直樹
- 川村元気
- 澤村伊智
- 西條奈加
- 山家望
- 群ようこ
- 村井理子
- 古内一絵
- 馳星周
- 楡周平
- 南原詠
- 三崎優太
- 成美堂出版
- 成美堂出版
- 関川夏央
- 上遠恵子
- オードリー・タン
- 養老孟司



【一般書】

- 31センチ
- 沈黙の春
- いつものごはんは、きほんの10品あればいい
- 私をあたらしくする51のこと
- 園芸道具の選び方、使い方「コツ」の科学
- 「秋田のターシャ」と呼ばれて
- 絵描き
- 日本の名句・名歌を読みかえす
- 絵本作家の森のいえ便り
- 愉快的病人たち
- 大丈夫じゃないのに大丈夫なふりをした
- 図説 明治政府
- 差別はたいてい悪意のない人がする
- ぼくと目の見えない内田さんがであったはなし
- リノベとリフォームの、何ができない
何ができるのすべてがわかる本
- 緑と住む
- いちばんやさしい着物リメイク
- ローカルおやつの本
- ミニチュアおりがみベーカリー
- 岡見京子
- レイチェル・カーソン
- 寿木けい
- 本多さおり
- 講談社
- 佐々木利子
- いせひでこ
- イソップ社
- acototo
- 日刊ゲンダイ
- クウベウ
- 久保田哲
- キム・ジヘ
- 赤木かん子
- 主婦の友社
- エクスナレッジ
- 松下純子
- グラフィック社
- 横田洋子



【おすすめ本を書いてみませんか!!】

対象は文化の森てんえい『図書室』にある本です。
 投稿文字数は200文字程度。掲載者にはお礼の記念品を
 贈呈いたします。皆さまのご応募、お待ちしております。